

略歴書

副島 紀代（そえじま みちよ）

(株)大林組 技術本部 技術研究所 防災情報調査センター所長、
博士（工学）、技術士（総合技術監理部門、建設部門）、
上級土木技術者（防災）、コンクリート診断士



【専攻分野】地震工学

【本会活動】

- ・事業企画委員会 委員：2002年6月～2004年5月
- ・会誌編集委員会 委員：2010年4月～2012年3月
- ・システム性能を考慮した産業施設諸機能の耐震性評価研究委員会（Phase2）
オブザーバー：2014年4月～2016年3月
- ・理事（総務担当）：2014年6月～2016年5月
- ・功績賞選考委員会 委員：2014年6月～2016年5月
- ・将来構想委員会 委員：2014年9月～2016年5月
- ・会長特別委員会 地域の災害レジリエンスの評価指標開発と政策シミュレーション研究委員会 委員：2015年4月～2018年5月
- ・役員候補推薦委員会 委員：2019年5月～2023年5月
- ・地中構造物に作用する地盤反力に関する研究委員会 委員：2021年7月～2023年6月

【略歴】

1992年 東京大学工学部土木工学科 卒業
1994年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻 修士課程修了
1994年 (株)大林組 入社、土木現場勤務を経て
1996年 (株)大林組 技術研究所 土木第五研究室
2015年 (株)大林組 技術研究所 構造技術研究室 主任研究員
2025年 (株)大林組 技術研究所 防災情報調査センター 所長

【受賞】

日本地震工学会 功労賞（2017年）

【委員会活動(直近5年間)】

- ・土木学会地震工学委員会 委員（2016年4月～）
- ・土木学会地震工学委員会 マルチハザードに対するライフライン施設の減災・保全対策に関する研究小委員会 委員（2019年7月～2025年8月）
- ・土木学会地震工学委員会 論文集編集小委員会 委員（2023年4月～）

【著書および主要論文(代表的なもの10編以内)】

- ・副島，目黒，山崎，片山：地理情報システムを用いた都市の停電影響度の解析，日本地震工学シンポジウム論文集，vol.9-2，pp. 2179-2184，1994.
- ・副島，松田，後藤：既設地下構造物を対象とした耐震性評価法の比較について，地震工学研究発表会講演論文集，Vol.24，pp. 953-956，1997.
- ・副島，目黒：事業継続性の評価に基づく効果的な地震対策の選定手法，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.65，No.1（地震工学論文集第30巻），629-636，2009.
- ・副島，江尻：工学的基盤における強震動の速度応答スペクトルに関する考察，第15回日本地震工学シンポジウム，pp.2384-2387，2018.

【所信】（700～1000 字程度）

我が国では、長年にわたる地震研究の蓄積により、地震に対する社会の安全性が高められてきました。一方で、社会構造や環境の変化に伴い、常に新たな課題に直面し続けます。少子高齢化による担い手の減少、都市機能の高度化・集中化、さらには気候変動に伴う複合災害の顕在化など、従来の前提が変化する中で、災害リスクの様相も一層複雑化しています。これまでの知見を踏まえつつ、新たな課題に継続的に向き合っていくことが、地震工学分野においても重要であると考えております。

特に、今後発生が懸念される南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震に対し、災害リスクを軽減し、被害をいかに抑えるかは、本学会の大きな使命であると考えます。本学会は、地震工学に関連する多様な専門分野を横断し、研究の連携と発展を促進する重要な基盤として設立された学会であり、さまざまな分野の研究者・技術者が協力してこの難しい課題に立ち向かうための場として、実効的に機能することを期待しております。

また、本学会は公益社団法人として、活動の成果を社会に還元することも求められています。学術的知見を広く社会に伝え、防災・減災の実践へとつなげることは、本学会の重要な責務でもあります。

監事としての責務を担うことになりましたら、総務理事として学会運営に携わった経験を活かし、組織運営の健全性・透明性の確保に努めてまいります。あわせて、会員のみなさまの活動が円滑に推進される環境づくりを支援するとともに、活動成果の社会への還元を通じて、微力ながら持続可能な社会の実現に少しでも貢献できればと思います。

以上